

庭: 一週目
ほこり + 呼吸
ボ・スターン・ブレイディ
2024年・4月・7日

庭の回想。私たちは神の庭であり、神が愛する世界に植えた種なのです。

”主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。
“

創世記 2:7-8 口語訳

塵(アパル) = 乾いた土、塵、粉、灰、土、地面、モルタル、ゴミ。

息(ネシャマ) - 神の息吹。塵を命に変える神の活気づける、活性化する力。

この創造物語の中で、イエスは私たちが塵から作られたという謙虚な現実を語っています。(もっと良いものは使えなかったのでしょうか? もっと高く、もっと美しいものは? 雲や海の波や山の雪で作ることはできなかったのでしょうか?) これは、塵であることを忘れないようにという神の警告のように感じます。私たちは土台から生まれました。私たちは大きな物語の小さな一部ですが、その後... 私たちの塵の骨組みに神はご自身の息を吹き込み、ご自身のイメージを刻み込みます(創世記 1:27)。私たちは塵です。それは謙虚なことです。私たちは、地球の塵と神の息吹が美しく神秘的に融合したものです。それは私たちに謙虚さだけでなく、意義も与えてくれます。人類は無限の成功と豊かさのために準備されています。

イザヤはそれを預言した:

”主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、捕われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ、主の恵みの年と われわれの神の報復の日とを告げさせ、また、すべての悲しむ者を慰め、シオンの中の悲しむ者に喜びを与え、灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、さんびの衣を与えさせるためである。こうして、彼らは義のかしの木となえられ、主がその栄光をあらわすために 植えられた者となえられる。”

イザヤ書 61:1-3 口語訳

主の霊(ルア=息)が私に油を注いでくださった...かつては灰(同じ言葉=塵)だった場所に美をもたらし、壊れた世界に癒しをもたらすために、さらに何か、油を注がれた何か、ダイナミックで生命を与える何かになるように...あらゆる困難を乗り越えて繁栄する庭園になるように。

”地が芽をいだし、園がまいたものを生やすように、主なる神は義と誉とを、もろもろの国の前に、生やされる。”

イザヤ書 61:11 口語訳

ここで私たちは、神の息吹が私たちの塵に吹き込まれ、美しさ、輝き、踊り、繁栄が生まれるという預言を目にします。

8世紀が過ぎ、イエスは荒野で過ごし、サタンに誘惑されます。これは神学の話ではなく、私にとって非常に視覚的で心に訴える話です。イスラエルの民は40年間の放浪のために荒野に導かれます。イエスは聖霊によって40日間の試練のために荒野に導かれます。東では、この荒野は砂漠です。何マイルにもわたる砂塵です。私の心の中では、砂漠に閉じ込められることは、痛ましい孤独、焼けつくような暑さ、そして果てしない憧れを表しています...それは息のない砂塵です。(クリスマスのない冬。塵から息がなくなると、死、絶望。塵と息がなくなると、ヨハネ10:10、命、命、さらに命。) イエスはそこにいるのです (イエスはまた、40日間断食を続け、人間性の塵の側面の必要性をさらに否定しています)... 聖霊、聖なる息に導かれ、罪に向かいます。(サタンは、塵の中で、あらゆる種類の気晴らしを作ろうと懸命に働いています。外の世界でやるべきことはそれだけです。偽りの人生観を作り、自分の飢えを満たし、地上の権力、所有物、成功で満たされ、服従を犠牲にして神を守ります。イブが失敗した試練をイエスは克服しました) そして、イエスが戻ってきたときの様子を見てください。

”それからイエスは御霊の力に満ちあふれてガリラヤへ帰られると、そのうわさがその地方全体にひろまった。”

ルカによる福音書 4:14 口語訳

イエスは神の息吹(プネウマ - 風、息、霊)に満ちて戻ってきました。そして神殿に行き、そこで巻物を手渡され、それを読んでいました:

”「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別して下さったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。”

ルカによる福音書 4:18-19 口語訳

彼はイザヤのあの美しい、塵から舞い上がるような言葉を思い起こし、説教を終える:

”イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。”

ルカによる福音書 4:20-21 口語訳

イエスはこう言います。「私はこの言葉の成就です...」イエスはイザヤの預言の成就であるだけでなく、私たち一人一人の切望の成就でもあります。人生と繁栄、そして真に、完全に、力強く生き生きとした自由な存在への切望です。イエスは私たちの魂の種と土壌にこの種の命を語るために来られました。

イエスは塵のような人生という終わりのない苦痛の欲求不満の中に足を踏み入れます。単調さ。退屈さ。孤独。イエスは命の息吹をしっかりと掴み、勝利を収めて現れます。そして私たち全員に十分な息吹と命を携えて。ニコデモとの会話を見てください:

”イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。ニコデモは言った、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいつて生れることができますでしょうか」。イエスは答えられた、「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。

ヨハネによる福音書 3:3-8 口語訳

この会話がとても好きなのは、私の中で何かが目覚めるからです。塵は塵です。私たちは皆、塵を持っています。私たちは皆、塵でできており、塵の信頼性を必要としています。しかし、スピリット...スピリットは野性的で予測不可能です...それは動きであり、癒しであり、創造性であり、喜びであり、生命です。野の花でいっぱいの草原やラズベリーでいっぱいの土手のように、美は野性的で自由に成長し、そのような生命は、私が自分で作った砂漠で再現しようとするものよりも素晴らしいように思えます。

”イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」。そう言って、彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ」。

ヨハネによる福音書 20:21-22 口語訳

復活したイエスの息吹は、聖霊の約束を弟子たちに伝えます。新しい命。新しい希望。私たちの古い塵の中にある新しい目的。

(キーはここにバックアップされています)

ほこり + 呼吸:

1. 世界に神の善良さを示す
2. 災害に揺るがされることなく、良い実を結ぶ丈夫な庭に成長する

庭について読むといつも、魔法のように聞こえます。果物や花、動物、そしておそらくとても良い天気。罪はありません。恥はありません。恐れはありません。心痛はありません。

しかし、それらすべてよりも重要なのは、庭が神の存在が豊かで真実で美しい場所だということです。そこは、神が涼しい日中に創造物とともに歩く場所です。彼らの人生に神が刻み込まれた痕跡が極めて鮮明です。

この痕跡は、友情や召使いと主人の関係とは異なるもの、つまりパートナーシップを生み出します。万物の創造主は、創造物を彼と一緒に仕事に踏み出すよう招きます。シャベルを手に取り、土を耕し、種を植え、彼と一緒に建て、名前を付け、創造します。

返事: 今日、あなたの中で一番生きているものは何ですか？神の息吹をどれくらい身近に感じますか？あなたはどこを耕していますか？何を捨て、何を成長させる必要がありますか？

祝禱

多分:

”荒野と、かわいた地とは楽しみ、さばくは喜びて花咲き、さふらんのように、さかんに花咲き、かつ喜び楽しみ、かつ歌う。これにレバノンの栄えが与えられ、カルメルおよびシャロンの麗しさが与えられる。彼らは主の栄光を見、われわれの神の麗しさを見る。あなたがたは弱った手を強くし、よろめくひざを健やかにせよ。心おののく者に言え、「強くあれ、恐れてはならない。見よ、あなたがたの神は報復をもって臨み、神の報いをもってこられる。神は来て、あなたがたを救われる」と。その時、見えない人の目は開かれ、聞こえない人の耳は聞えるようになる。その時、足の不自由な人は、しかのように飛び走り、口のきけない人の舌は喜び歌う。それは荒野に水がわき、さばくに川が流れるからである。焼けた砂は池となり、かわいた地は水の源となり、山犬の伏したすみかは、葦、よしの茂りあう所となる。そこに大路があり、その道は聖なる道となえられる。汚れた者はこれを通り過ぎることはできない、愚かなる者はそこに迷い入ることはない。”

イザヤ書 35:1-8 口語訳